

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 35, No. 6 June 1989

泌尿器科紀要

第35巻 第6号 1989年6月

【原 著】

尿路結石症の記述疫学的考察	児玉 博和・大野 良之	923
尿路結石症の分析疫学的考察	児玉 博和・大野 良之	935
上部尿路上皮腫瘍における膜抗原の研究 —ABH-isoantigen と Thomsen-Friedenreich antigen— (英文)	深津 英捷・ほか	949
Cisplatin 持続点滴静注法における血中動態の薬理学的解析	日裏 勝・ほか	955
腎癌の発見における超音波断層法の意義	江左 篤宣・ほか	963
尿管異所開口 13例の臨床的検討	高羽 秀典・ほか	969
尿管管癌 7例の臨床的検討	飯沢 肇・ほか	975
Stage D1 前立腺癌の検討 —リンパ節の移転様式および stage D1 前立腺癌の予後—	荒井 陽一・ほか	981
各種前立腺疾患における前立腺性酸性フォスファターゼ, 前立腺特異抗原およびガンマ・セミノプロテイン測定の意味	山口 邦雄・ほか	987
10歳代における尖圭コンジローム	影山 幸雄・ほか	993
hCG 負荷に対する内精静脈血漿レニン活性の反応性について	近藤 宣幸・ほか	997

【症 例】

後腹膜神経節細胞腫の1例 (英文)	滝内 秀和・ほか	1001
骨転移を伴った悪性異所性褐色細胞腫の1例	荒木 富雄・ほか	1005
停留睾丸を伴った巨大後腹膜腫瘍の1例	原田 吉将・ほか	1009
Cushing 症候群を呈した副腎皮質癌の1例	国見 一人・ほか	1015
腎細胞癌の精索転移の1例	日裏 勝・ほか	1021
食道原発の転移性腎腫瘍	佐藤 滋・ほか	1025
針生検にて確診が得られ保存的治療を行った両側腎血管筋脂肪腫の1例	国見 一人・ほか	1031
腎血管性高血圧の治療指針: とくに手術療法の再評価	畠 亮・ほか	1035
膀胱腫瘍を合併した融合性骨盤腎(塊状腎)の1例	入谷 純光・ほか	1041
小児尿管ポリープの1例	児島 康行・ほか	1047
両側異所性尿管瘤の1例	妻谷 憲一・ほか	1051
TUR 後尿道および陰茎に転移した表在性膀胱癌の1例	高橋 省二・ほか	1055
皮膚転移をきたした膀胱癌の2例	滝川 浩・ほか	1061
CEA 産生尿管管癌の1例	新井 豊・ほか	1065
内分泌・化学併用療法で肺転移消失のみられた前立腺癌の1例	坂本 修一・ほか	1069
新生児睾丸梗塞の1例	栗原 潤・ほか	1075
睾丸破裂の2例	辻野 進・ほか	1079

【治 験】

急性単純性膀胱炎に対する Cefixime (セフスパン®) の使用経験	富樫 正樹・ほか	1083
急性精巣上体炎に対する Norfloxacin (NFLX) の臨床検討	荒川 創一・ほか	1089

泌尿器科紀要

Advisory Committee

阿曾 佳郎 熊本 悦明 園田 孝夫 田崎 寛 前川 正信
町田 豊平 宮崎 重

Editor : 吉田 修

Deputy Editor : 竹内 秀雄

Associate Editors

大川 順正 折笠 精一 熊沢 淨一 小磯 謙吉 友吉 唯夫
渡辺 決

Editorial Board

生駒 文彦 上田 豊史 碓井 亜 大江 宏 大島 伸一
大島 博幸 大田黒和生 大野 良之 大森 弘之 岡 隆宏
岡島英五郎 岡田謙一郎 岡田 裕作 岡本 重禮 香川 征
垣添 忠生 片山 喬 加藤 哲郎 守殿 貞夫 河合 恒雄
河田 幸道 河邊 香月 川村 寿一 川村 猛 桐山 奮夫
栗田 孝 桑原 正明 郡 健二郎 古武 敏彦 小松 洋輔
小柳 知彦 近藤 厚生 酒徳治三郎 桜井 昴 里見 佳昭
島崎 淳 白井 将文 瀬川 昭夫 田中 啓幹 津川 龍三
土田 正義 東間 紘 中田 瑛浩 名出 頼男 東原 英二
久住 治男 平尾 佳彦 三品 輝男 宮川美栄子 三宅 弘治
宮崎 一興 矢谷 隆一 八竹 直 山中 英寿 山辺 博彦

Managing Editor : 松田 公志

Language Editor : 貝原 純子

Secretary : 太田 賢

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1989年3月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨症統計、そのほかで英文または和文とする。原著、症例報告、臨床統計などは、他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はできるだけワープロを使用し、B5版用紙に20字×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (4) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (5) 図(Fig.)、表(Table)は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したもの(コピー不可)が望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までとする。

例：山田^{1,3,7)}、田中^{8,11-13)}によると…

雑誌の場合—著者名(全員)：標題、雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎砕石術(PNL)および経尿道的尿管砕石術(TUL)にみられる発熱について, 泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名(全員)：標題、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 大保亶一: 腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学, 診断・治療編。吉田 修編, 第1版, pp. 259-301, 南江堂, 東京, 1986

- (7) 原稿は, オリジナル1部とコピー2部(図, 写真は3部ともオリジナル)を書留で送付する。万一にそなえて, コピーを手元に控えておくこと。

(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (8) 論文の採否: 論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。
- (9) 論文の訂正: 査読審査の結果原稿の訂正を求められた場合は, 40日以内に, 訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて, 編集部宛送付すること。なお, Editor の責任において多少字句の訂正をすることがある。
- (10) 校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
- (11) 投稿にあたっては, 本誌を十分参考にして体裁を守ること。
3. 掲載
- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。
迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円, 6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。
- (2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円, 英文は6,500円, 超過頁は1頁につき7,000円, 写真代, 凸版, トレース代, 別冊, 送料などは別に実費を申し受ける。
- (3) 薬剤の効果, 測定試薬の成績, 治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については, 掲載料を別途に申し受ける。
4. 別冊: 実費負担とし, 著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.